

# 刊行にあたって

本書を編集するにあたり、若い開業医を編集委員に迎え、大学在籍時の教育背景、世代差による経験値の相違、さらには卒後の就業形態の相違を考慮し、日常臨床における小児歯科領域の疑問点や注意すべき点の抽出を行った。そのうえで、妊娠・出産に始まり、乳・幼児期から学童期を経て永久歯列の完成と安定までの成長の過程を小児歯科臨床の対象として定義した。その成長の時間軸上に発生する問題や注意すべき点を整理し、小児歯科における予防・う蝕治療・歯内療法・咬合誘導・口腔外科・医療管理などの多岐にわたるカテゴリーを設定させていただいた。

本書はそのカテゴリーにおいて、現在第一線で活躍しておられる先生方に、臨床で遭遇するであろう具体的な臨床例の呈示とともに問題解決方法を執筆していただいた、珠玉の一冊と自負している。

ただし、本書では小児の行動管理に関してはあえて触れていない。その理由として、歯科の臨床場面では、近似値な行動管理を行うには個人の性格もさることながら、取り巻く家庭環境、たとえば兄弟の有無や保護者への依存性なども考慮する必要がある。さらには、成長とともに、個から集団生活といった社会環境の変化からも、小児の心理状態は影響を受ける。このように変化するなかで、歯科における行動管理を因数分解しながら説明することは極めて困難であり、本書の紙数だけではとても足りないため、あえて触れていないことをお許しいただきたい。

しかし、強いていうならば、非常に抽象的かつ古典的な言葉ではあるが、Tender Loving Care(TLC) 精神に基づいて小児と接すれば、自ずと正しい対応が可能ではないかと信じている。本書を執筆した先生方も TLC 精神を根底に、発育を阻害する因子に対して安全かつ効率的に介入する方法、さらには近年の小児歯科におけるトピックスも紹介していただいている。

臨床現場において、小児歯科領域で直面する諸問題の解決や、現状より1ランク上へとレベルアップを目指す先生方にとって、本書がその一助となれば幸いである。

編集委員 田中晃伸